

令和7年度 第5回 藤沢市立八松小学校 学校運営協議会議事録

開催日時 2026年2月5日（木）午前10時～11時45分
場 所 八松小学校 相談室

出席委員等	植木 菊治（会長／辻堂地区民生委員） 瀧谷 典子（副会長／八松小学校校長） 山本 あや（本校在籍児童保護者） 吉田 秀樹（辻堂まちづくり会議 防災担当） 若林 理恵（藤沢市社会福祉協議会 コミュニティ・ソーシャルワーカー） 小野 登紀子（明治地区民生委員児童委員） 猿渡 智香子（辻堂二葉幼稚園園長） 梶居 亮子（八松子どもクラブ クラブ長） 小林 美幸（明治地区民生委員児童委員協議会主任児童委員） 片山 雄貴（辻堂市民センター職員） 秋山 るみ（八松小学校教頭） ----- 出席委員：11名（欠席委員3名）
次第	1 開 会 2 本日の議題 (1) 2025年度学校評価結果について (2) 令和8年度学校運営に引き継ぐ課題について (3) 学校参観 3 その他 4 閉 会
協議内容	2. 議題 (1) 2025年度学校評価結果について ・副会長 「学校評価アンケートの結果のまとめ」をもとに説明 職員の年間反省より、評価について学んでいこうという声が出ている。 2030年度より次期学習指導要領の実施となる。次年度以降、 次期学習指導要領改訂に向けた、研究、研修の時間を設けたい。 ・委員 児童アンケート項目「こまったことがあったときは、先生や友だちに そうだんできる」で、先生と友だちの両方が入っていることについて の質問。 ・副会長 先生でも友だちでも、誰か相談できる人が一人でもいることが重要 だと捉えているため、先生と友だちの両方を入れている。 ・委員 回収率についての質問 ・副会長 児童は、ほぼ100%。保護者は、6割ぐらいの回答率。対象は、 全世帯で、グーグルフォームでの回答。 子どもたちの困りごとについては、毎学期1回「学校生活アンケート」 で紙に記述式で実施している。 (2) 令和8年度学校運営に引き継ぐ課題について ・副会長 未来志向で、「続けたいこと」と「課題をどうしたらよいか。」とい

う点を学校・地域・家庭の視点からどんなことができるか考えていただきたい。

《グループ協議》 *4 グループで協議

【継続したいこと】

- ・リソースルームの取り組みについて、子どもにとっての安心の場になっている。
- ・児童指導上の課題の早期発見への取り組み。問題が起きた時に、チームとして対応する。
- ・子ども同士が協力する活動などを通して、コミュニケーション能力を身につけることを大切にする。
- ・八松小だよりが、わかりやすく、気持ちが入ったものになっている。
- ・感謝のころをもつこと。保護者、地域へのはたらきかけをしていく。
- ・辻堂の財産（人・もの・ころ）を大切に活用していく。
- ・教科担任制や学年での交換授業を通して、いろいろな立場で子どもをみていく。

【課題（子どもたちが相談しやすい学校をつくる）には、をどうしたらよいか（学校・地域・家庭の視点で）】

- ・日常の子どものみとり、声かけ、何気ない会話を大切にする。（学校）
- ・顔の見える関係づくり。地域のイベントや子ども会への参加。（地域）
- ・日ごろより、なんでも話せる家庭環境をつくる。（家庭）
- ・子どもとの会話を大切にする。（家庭）
- ・顔が見えない、知らない方が相談できることもあるかもしれない。チャットなど、相談できる場をつくる。（地域）
- ・相談すると心が軽くなる、相談してよかった、という経験。相談することは恥ずかしいことではない、と授業などで伝える。（学校）
- ・子どもたちの心をひらく。日頃から安心して関わられるようにする。会話を大切にする。安心して自分の心を伝えられるようにする。（学校・地域・家庭）

- ・ 副会長 たくさんアイデアありがとうございます。

地域の方との顔の見える関係が大切だと思っている。そのために、地域の方に学校に入ってきてもらう取り組みをしたい。顔の見える関係になり、何気ない会話をするようになる。そこから、相談してみようと思うかもしれない。子どもの表情から、気がついた時に声かけをする。給食配膳時の見守りなど、次年度さらに地域の方に学校に入ってもらいたい、と考えている。

今年度は、リソースルームの見守りをおこなっていただいた。市民センターに募集のポスターを掲示していただき、そちらを見て応募いただいた方が2名見守りに参加してくださっている。その他、辻堂地区社会福祉協議会から、月2回見守り活動をしていただいている。日頃の教育活動への参加が難しい子どもにとって、安心の場となっている。今後も継続して充実させていきたい。

以 上